

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 17 日現在

機関番号：38004

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23830119

研究課題名（和文） 近代沖縄教育への思想的アプローチのための基礎的研究

 研究課題名（英文） A Basic Study on Modern Okinawa Education
From a viewpoint of History-of-ideas research

研究代表者

照屋 信治（TERUYA SHINJI）

沖縄キリスト教学院大学・人文学部・准教授

研究者番号：70612498

研究成果の概要（和文）：

本研究の目標は、沖縄県教育会機関紙『琉球教育』（1895-1906）『沖縄教育』（1906-1944）の分析をつうじ、「同化教育」「皇民化教育」とその本質が規定される近代沖縄教育史を、沖縄人教師の視点から捉え直し、その「同化教育」「皇民化教育」がどのような影響を沖縄人教師の精神にもたらしたのか、また、沖縄人教師たちは押しつけられた近代学校をどのように自らのものにしてゆこうとしたのか、を掘り起こしてゆくことである。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to examine Okinawa educational history from a view of Okinawan teachers, to understand the effect of Kouminka(Japanese assimilation) on Okinawan teachers, and to describe how they tried to change such kind of education to a useful one for Okinawan through the careful analysis of *Ryukyu Education*(1895-1906) and *Okinawa Education*(1906-1944)

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：近代沖縄教育、同化、『沖縄教育』、『琉球教育』、沖縄県教育会

1. 研究開始当初の背景

近年、沖縄近代史研究においては、一定程度の学問的な進捗が確認される。同研究がその基礎を固めたのは、1972年の沖縄の「本土復帰」を前後する時期であった。それ以降、研究が停滞した時期がつついていたが、1990年以降、日本史学研究における国民国家論、ポストコロニアリズムなどの流行のなか、新たに近代沖縄教育史研究が注目されるようになった。その中で、最も顕著な研究成果を残したのが近藤健一郎であり、同氏は『近代沖縄における教育と国民統合』（北海道大学出版会、2006年）で、沖縄教育史独自の時代区分論を伴う実証的な歴史像を提起した。現在の近代沖縄教育史研究の達成点を示す研究であるといえる。しかし、同研究においても、基本的な視座は、「教育と国民統合」という言葉に象徴されるように、政府・県による教育政策の進展過程を跡付けるといえるものであり、それが教育を受ける側（あるいは統合される側）の精神にどれほどの影響を及ぼしたのか、に関心が向かっていない。教育研究とは本来、教育活動が学ぶものにどのような影響を及ぼすかを明らかにすることがもとめられているのであるが、教育史研究においては、史料上の困難さから教育効果の検証が十分に行われていない。近代沖縄教育史研究においても、沖縄における学校教育が、沖縄人の精神にいかなる影響を及ぼしたのかが明らかにされてはいない。史料上の制約から、いたしかたない側面はあるが、しかし、近代を生きた沖縄人教師たちがどのような思いで学校教育に従事していたのかに関しては、沖縄県教育会機関誌『琉球教育』『沖縄教育』などの史料から明らかにすることはできるはずである。

そのような問題意識から、教育を受けた子供たちへの影響を、彼・彼女が沖縄県師範学校を卒業し、教員になったのちの行動と思想から読み取ってゆくことが可能であるといえる。それは、沖縄人あるいは沖縄人教師が、大和（≒内地）よりもたらされ、「大和屋」とよばれた近代学校を、いかにして沖縄人自身の学校へと改編してゆこうとしたのかを明らかにする研究であるといえる。沖縄県教育会機関誌『琉球教育』『沖縄教育』を分析することにより、そのような研究は可能であると言える。

本研究では、近代沖縄教育史研究で『琉球教育』『沖縄教育』について重要と言える、『琉球新報』などの同時代の新聞の教育記事を整理分析し、『琉球教育』『沖縄教育』の思想的な研究を補いたい。資料の収集に関しては、すでに、琉球政府編『沖縄県史 第18巻 新聞集成（教育）』（1966年）において一定程度

行われている。しかし45年の歳月を経て、新たな新聞資料の発掘が進んでいる状況にあり、また、米軍統治下・復帰運動時期とは異なる今日的な視点から再度、史料の再読・選定を行わなくてはならない。また、何よりも、1914年12月までしか対象としていない同新聞集成の不完全さを補い、近代沖縄（教育史）研究者の研究環境を整備しなくてはならない。

また、『琉球教育』『沖縄教育』誌上で活躍する教師・知識人・編集者らの想いを探る作業も必要である。特に近代沖縄においては、高等教育機関が存在しなかったこともあり、学校の教員は知識人層といえ、彼らの思想を分析することは、近代沖縄思想史研究の一環であるともいえる。教育史研究と思想史研究の双方の視点から、史料を収集・分析し、近代沖縄における教育の意味を再考する基礎を築く必要がある。伊波普猷ら沖縄学の知識人のみを主な対象としてきた近代沖縄思想史に対しても、本研究は、より広範な研究対象を提示することが可能になるといえる。

2. 研究の目的

本研究は、従来、政府や行政による教育政策の分析を中心に展開され、「同化教育」「皇民化教育」とその本質が規定される近代沖縄教育史を、沖縄人教師の視点から捉え直し、その「同化教育」「皇民化教育」がどのような影響を沖縄人教師の精神にもたらしたのか、また、沖縄人教師たちは押しつけられた近代学校をどのように自らのものにしてゆこうとしたのか、を掘り起こしてゆく研究を行うのに必要な基礎的研究を行うものである。

具体的には、近代沖縄教育史研究の基礎的な文献である沖縄県教育会機関紙『琉球教育』（1895-1906）『沖縄教育』（1906-1944）を分析するとともに、同誌上で活躍する編集担当者・教員・知識人の文献を収集し、その教育に関する思想を分析する。そして、『琉球教育』『沖縄教育』と同時代の日刊紙の教育関連記事の一覧を作り、分析することにより、近代沖縄教育の思想史のアプローチを行うための基礎的な整備・研究を行う。

3. 研究の方法

近代沖縄教育の基礎が固められる1960年代から、沖縄県教育会機関紙『琉球教育』『沖縄教育』、および、『琉球新報』などの新聞資料は、基礎的な資料として活用されてきた。その成果は、琉球政府編『沖縄県史 第4巻

教育』(1966年)にまとめられ、史料集としても、琉球政府編『沖縄県史 第18巻 新聞集成(教育)』(1966年)などが刊行されている。しかし、これらの研究成果を確認すると一目瞭然であるように、「同化教育」「皇民化教育」であるとされる議論の語り手が、沖縄人であるのか大和人(≒内地人)であるのかさえ確認されないままで、史料として利用されている状況にある。例えば、台湾教育史研究などの植民地研究において、その言論が宗主国出身者であるか植民地出身者であるかの判別は当然の前提であるのだが、近代沖縄教育史研究においては、それすら厳密に行われていない状況にある。そのような傾向は、近年の近代沖縄教育史研究においても確認できる点である。それは、沖縄史を日本史の枠組みでとらえようとする視座によるものであるだけでなく、『琉球教育』『沖縄教育』『琉球新報』の個々の論説・記事などについての厳密な検討を欠いたためであると言える。

以上のような研究状況にあっては、基礎資料である『琉球教育』『沖縄教育』などの教育会雑誌や、『琉球新報』などの新聞の論考や記事の著者の属性などを丹念に調べ上げてゆく作業が必要になってくる。そのような基礎的かつ重要な作業を本研究課題においては行う。それが本研究の方法ともいえるべきものである。また、その作業は、一覧表の作成など膨大な作業を伴うものであるが、ひとつひとつの記事を読み、各種資料で、著者の属性を調べ上げる作業などをおこなってゆきたい。

さらに、国内外での史料の探索・調査・分析も本研究の方法として重要である。沖縄戦による膨大な史料の焼失が、沖縄史研究の停滞の原因であることはいままでもないが、本研究においても、出来る限りの調査を行いたい。

4. 研究成果

(1) 本研究の意義は、概ね、次の2点に集約できる。

1点目として、実証的な研究の乏しい近代沖縄史研究において、教育に関する実証的な積み上げを行うことになる点である。近年の日本史研究の文脈における国民国家論、ポストコロニアリズム研究の視点から、近代沖縄史が盛んに論じられるが、それとは裏腹に実証的な研究は乏しいと言わざるをえない。本研究は、そのような研究状況に向き合い、近代沖縄史、近代沖縄教育史の着実な発展を期する実証的な研究の基礎を提供しようとするものである。

2点目として、教育政策の進展過程を跡付

けることを中心的な課題とする教育史研究に対して、統合の対象である沖縄人にとって、その教育政策がどのような意味をもつものであったかを明らかにしようとする点に独自性と可能性があると考ええる。それは、植民地研究の文脈で近代沖縄教育史を論ずる際にも必須の視点を提供するものである。

(2) 一八九三年から一九〇二年までの約十年間、沖縄県尋常師範学校教諭であった広島出身の新田義尊の思想と行動を明らかにした。新田は、沖縄県私立教育会機関誌『琉球教育』の編集にたずさわって、日清戦争後の沖縄教育のあり方、沖縄人の自己認識にも大きな影響を与えた人物である。主論文の「沖縄は沖縄なり琉球にあらず」が、その思想の輪郭を明瞭に示している。沖縄教育の原形といえるものを創り上げた人物といえる。従来、『琉球教育』誌上の論の分析にのみ偏っていた新田研究を、新たに発見した履歴書等の資料をもとに明らかにした。また、『琉球教育』の編集者としての活動の分析を通じ、著名入りの議論と編集者としての活動との間の微妙なずれを確認し、その全体像を明らかにした。

(3) 沖縄県立第三中学校教諭であった豊川善暉(1888-1941)の思想と実践を分析し、1930年代初頭の沖縄における郷土教育の可能性と陥穽とを指摘した。

近代沖縄教育史は、「同化」「皇民化」という用語で説明されてきた。教師たちは日本政府の同化政策を無批判的に推し進めた存在だと理解されてきた。しかし、1930年代初頭の郷土教育が盛んな時期、豊川善暉をはじめ幾人かの教師たちは、強い「沖縄人」意識をあらわにし、その必要性を訴えていた。豊川は、郷土史教育の目的を沖縄の「民族魂」の鼓吹であるとまで高唱していた。なぜそのようなことが戦前日本の公教育の場で可能であったのか、その教育的、社会的背景を探り、その思想の輪郭を描き、陥穽を指摘した。また、それらの作業を通じ、全国的に展開された郷土教育が、沖縄においては異なった様相を呈したことを明らかにした。

(4) 1940年の「沖縄方言論争」を、標準語励行運動に関わった沖縄人教師達の視点から再検証するとともに、総力戦体制下における沖縄人の自意識の在り方を、論争から見えてくる「標準語」と「方言」の関係のなかに確認した。従来「沖縄方言論争」は、柳宗悦ら民芸協会と沖縄県庁との対立として捉えられて、柳らの先見性と沖縄側の過度に標準語励行を推し進める姿勢が確認されてきたが、本研究では、標準語励行運動の文脈の上に「沖縄方言論争」を位置づけなおすことによ

り、新たな位置づけを行った。『沖縄教育』誌上の標準語励行運動を確認すれば、柳が提起したいわば「併用論」とはことなり、諦念と深い思考をへた議論が繰り広げられていた。宇久本政元の「混用論」は当時の沖縄のアイデンティティの有様を反映したものといえる。

(5)日清戦争から沖縄戦に至るまでの『琉球教育』『沖縄教育』を精査し、沖縄県教育会の組織・編集体制・内部での葛藤を明らかにし、同誌上に、近代沖縄の思想史像を読みとり、「沖縄人」意識のあり方を確認し、沖縄人が大和よりもたらされた近代教育をいかにして自らのものにしようとしたかを明らかにした。沖縄の言葉・文化・歴史認識をめぐる沖縄人と大和人、あるいは沖縄人同士の葛藤の中に、「沖縄人」意識の根を確認した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

①照屋信治「新田義尊(一八五八—未詳)—「沖縄は沖縄なり琉球にあらず」という教育論」藤澤健一編著『近代沖縄を生きる教員たち—数量・組織・個体』(仮)、榕樹書林、2013年度(刊行予定)。査読無し。

②照屋信治「1930年代前半 沖縄における郷土教育の思想と実践—豊川善嘩と「沖縄人」意識の行方—」『沖縄キリスト教学院大学論集』第9号、2012年12月、1-12頁。査読無し。

③藤澤健一、近藤健一郎、三島わかな、照屋信治「復刻版『沖縄教育』にかかわる補遺、ならびに若干の修訂」復刻版『沖縄教育』第37号所収、2012年、1-12頁。査読無し。

④照屋信治「「沖縄方言論争」と『沖縄教育』誌上の「標準語」教育論—「混用」という可能性—」日本教育史研究会『日本教育史研究』第30号、2011年8月38-64頁。査読有。

[図書] (計1件)

照屋信治『近代沖縄教育と「沖縄人」意識の行方』溪水社、2014年2月(刊行予定)

6. 研究組織

(1)研究代表者

照屋 信治 (TERUYA SHINJI)

沖縄キリスト教学院大学・人文学部・准教授

研究者番号：70612498

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし